

十月一日の國慶節までに、中国共産党十次大会が予告した全国人民代表大会が開かれるのではないかと、観測が多かったが、これまでのところ、開かれたかどうかは明らかではない。國慶節には恒例の三紙誌共同社説が発表され、新たな勝利を収めて第四期全国人民代表大会の開催を迎えなければならない」と語っていた。この指摘は、林彪異変

「工程」紀要に言及して、すでに外部世界には漏れ伝わっていたこの「紀要」が中国内部で林彪批判の材料として流布されていた事実を認めた。そして「林彪反党集団粉砕の闘争の経過、林彪反党集団の犯罪行為については、全党、全军、全国人民はすでに知っている。したがって、ここで詳しく述べる必要がない」と語っていた。この指摘は、林彪異変

り、秦始皇の法を執った中国史上最大の封建暴君である」等々。

ところが強調されたが、社説自体

「この指摘は、林彪異変

去る五月、中国を訪問したエチオピアのア・メキシユ大統領にたいし、「もともと重要かつ困難なことは権力の集中というところである」と、最近の心境を吐露していた毛沢東にとつて、こつした事実は、

毛沢東主席の心境

中嶋嶺雄

困難な権力の集中

中国情報

は、先の十次大会が示したおりの内容で、さして新味のあるものではない。

「B52」(毛沢東のこと、筆者)は余命い

「非毛沢東化」への周恩来の遠大な構想と

た。そして再び十次大会の問題に戻るが前回のこの編で指摘した主要文報告の含む深刻なナナについて、もう一つ意味深い問題を提出してみよう。

周恩来政治報告は、林彪を激しく糾弾しながら、林彪がつかったといわれる

「非毛沢東化」への周恩来の遠大な構想と

反革命武装クーデター計画の書入「五七

音で、マルクス・レーニン主義の皮を借

（東京外大助教授）